

関係各位

(財) 日本サッカー協会審判委員会
委員長 松崎 康弘

15 歳以下のフットサル競技会における競技規則の適用について

2003 年 6 月 6 日付け「第 3 種以下の競技会におけるフットサル競技規則の適用について（別添）」により、“ゴールキーパーから、ハーフウェーラインを越えて手で投げて、味方競技者にボールをフィードすること”を禁止した。

しかしながら、全日本少年フットサル大会等では、手で投げずとも、ゴールキーパーがボールを相手ハーフ内にけり入れることによって、同様の状況が発生し、フットサルにはほど遠いプレーが散見された。

については、15 歳以下の年代における更なるフットサルの技術向上を目的として、下記のとおり、手のみならずゴールキーパーからのハーフウェーラインをノーバウンドで越えるようなキックも認めないこととする。

記

1. 第 11 条 ファウルと不正行為

(財) 日本サッカー協会の決定

日本サッカー協会などが行う 15 歳以下のフットサル競技会においては、次の規則を適用する。

ゴールキーパーが手で投げた後、または足でつけた後、ボールが競技者に触れるかプレーされる、あるいはピッチ面に触れる前にハーフウェーラインを越えたときは、相手側チームに間接フリーキックを与える。

間接フリーキックは、ハーフウェーライン上の任意の地点から行われる。

2. 第 16 条 ゴールクリアランス

(財) 日本サッカー協会の決定

日本サッカー協会などが行う 15 歳以下のフットサル競技会においては、次の規則を適用する。

ゴールクリアランスされた後、ボールが競技者に触れるかプレーされる、あるいはピッチ面に触れる前にハーフウェーラインを越えたときは、相手側チームに間接フリーキックを与える。

間接フリーキックは、ハーフウェーライン上の任意の地点から行われる。

3. 施行日

2010 年 4 月 1 日

以上

新旧対照表

第11条 ファウルと不正行為

<現在の文章>

(財)日本サッカー協会の決定

日本サッカー協会などが行う第3種以下のフットサル競技会においては、次の規則を適用する。

ゴールキーパーが手で投げた後、ボールが競技者に触れるかプレーされる、あるいはグラウンドに触れる前にハーフウェーラインを越えたときは、相手側チームに間接フリーキックを与える。間接フリーキックは、ハーフウェーライン上の任意の地点から行われる。

<新しい文章>

(財)日本サッカー協会の決定

日本サッカー協会などが行う15歳以下のフットサル競技会においては、次の規則を適用する。

ゴールキーパーが手で投げた後、または足でつけた後、ボールが競技者に触れるかプレーされる、あるいはピッチ面に触れる前にハーフウェーラインを越えたときは、相手側チームに間接フリーキックを与える。間接フリーキックは、ハーフウェーライン上の任意の地点から行われる。

第16条 ゴールクリアランス

<現在の文章>

(財)日本サッカー協会の決定

日本サッカー協会などが行う第3種以下のフットサル競技会においては、次の規則を適用する。

ゴールクリアランスされた後、ボールが競技者に触れるかプレーされる、あるいはグラウンドに触れる前にハーフウェーラインを越えたときは、相手側チームに間接フリーキックを与える。

間接フリーキックは、ハーフウェーライン上の任意の地点から行われる。

<新しい文章>

(財)日本サッカー協会の決定

日本サッカー協会などが行う15歳以下のフットサル競技会においては、次の規則を適用する。

ゴールクリアランスされた後、ボールが競技者に触れるかプレーされる、あるいはピッチ面に触れる前にハーフウェーラインを越えたときは、相手側チームに間接フリーキックを与える。

間接フリーキックは、ハーフウェーライン上の任意の地点から行われる。

第3種以下の競技会におけるフットサル競技規則の適用について

第12条 反則と不正行為

「間接フリーキック」の後に次の条文を追加する。

(財)日本サッカー協会の決定

日本サッカー協会などが行う第3種以下のフットサル競技会においては、次の規則を適用する。

ゴールキーパーが手で投げた後、ボールが競技者に触れるかプレーされる、あるいはグラウンドに触れる前にハーフウェーラインを越えたときは、相手側チームに間接フリーキックを与える。間接フリーキックは、ハーフウェーライン上の任意の地点から行われる。

第17条 ゴールクリアランス

「違反と罰則」の後に次の条文を追加する。

(財)日本サッカー協会の決定

日本サッカー協会などが行う第3種以下のフットサル競技会においては、次の規則を適用する。

ゴールクリアランスされた後、ボールが競技者に触れるかプレーされる、あるいはグラウンドに触れる前にハーフウェーラインを越えたときは、相手側チームに間接フリーキックを与える。間接フリーキックは、ハーフウェーライン上の任意の地点から行われる。

日本協会の解説

フットサルは、原則として屋内でプレーされ、限られたプレーイング・エリアを活用しながら、スピーディーさを披露するところに醍醐味がある。2000年、FIFAは、第4回世界フットサル選手権大会もあり、その特長を更に引き出すべく、“ゴールキーパーから、ハーフウェーラインを越えて手で投げて、味方競技者にボールをフィードすること”を認め、競技規則を改正した。

この競技規則の改正は、一般のフットサルには高い効果を表した。しかし、成長差による体力差がプレーに大きな影響を与える第3種以下のフットサルでは、ゴールキーパーがハーフウェーラインを越えてボールを長身のフォワードに投げ、そのままゴールを狙わせる戦術が多くなり、時には、ゴールキーパー同士のキャッチボールが何度も続くという、フットサルにはほど遠いプレーが多く見られるようになった。これはフットサルの興味をそぐのみならず、正しいフットサルの技術向上を阻害することになっている。

については、第3種以下のフットサル競技会に限り、1995年の競技規則にある、「ゴールキーパーから直接ハーフウェーラインを越えてボールを投げることを禁止する」規則を適用するものとする。